

そろそろ出てくる嫌われ者 ～蚊にご用心～

東洋産業だより

Vol. 196
2020年5月号



ぷーん、という嫌な羽音、吸い込まれてかゆい、伝染病を媒介するなど、とても嫌われる蚊。夏の風物詩のイメージですが、実はそろそろ活動を開始しています。蚊に刺されないためにはどうしたらよいでしょうか？

蚊についてすこしおさらいします。よく目にする蚊はざっくりイエカとヤブカに大別され、どちらも卵、幼虫、蛹は必ず水のあるところで生きています。水面に尻尾のようなものを向けて逆立ちしているのがボウフラ（幼虫）、水面に背中を向けてうすくまるように浮いているのがオニボウフラ（蛹）です。水面に突き出しているのが呼吸管で、蚊の幼虫や蛹はここで息をしています。驚かせるとピコピコ動きながら沈んでいきますが、しばらくすると同じように浮かんでいきます。これはとても狭くて小さい水域が中心です。

一般的に蚊の防除で大切なことは、①身の回りで発生させないこと、②蚊のいない空間を作ること、③自身が蚊に刺されにくくすることだといわれますが、今回は①の一部をご紹介します。発生させないためのキーワードは水場対策（特に止水域）です。水場がなければ蚊は発生できませんので、水場を作らないことで、乾燥させることが重要です。まずは周辺環境を見回してみましよう。気を付けるポイントの代表例は、イエカは流れの定んだ排水溝や雨水桝、湧水槽や雑排水槽などの比較的広い水域、ヤブカは放置された空き缶や花瓶、壺や水槽、遊休設備、ゆがんで水が溜まった雨どいなどの



図：蚊の生活サイクル

特にヤブカ対策はここに尽きるといっても過言でなく、まず皆さまに行っていただきたいのは、水場を認識し確認すること、水場を減らすことなくすることです。場内外でのチェックと対策を強化しましょう。

一方でイエカに関しては発生源はかなり広い水域や対策が難しい水域で発生するため、発生原因がわかってもすぐに水場をなくすことはできない場面が多くあります。特にイエカのものであるチカイエカは建屋地下水域からも発生し、越冬もしません。年中蚊に刺されるというお心当たりがあればひよっとするとチカイエカの仕業かもしれません。イエカ類の対策はまず専門家に相談です。

嫌な力の被害を抑えるために、うまくいかないことや難しいこと、ご心配事があれば、我々プロにもご相談ください。薬剤処理を含め、皆様の状況に合わせたご提案をいたします。ご興味がありましたら、ぜひ一度ご相談ください。

今月の豆知識：虫よけスプレーの上手な使い方

蚊に刺されないために自分を守る最後の砦として、虫よけスプレーはとても効果的です。しかし、せっかく使用していても刺されてしまうこともあります。虫よけスプレーには使い方のコツがあり、このコツをつかまないと「耳なし芳一」状態になってしまうこともよくあります。今回は上手な使い方を紹介します。

まず、虫よけスプレーの効果は有効成分がかかったところのみであることを意識しましょう。スプレーをした後は手で塗り込むように広げるようにしましょう。ある実験では首の横、腕の外側、ひざの後ろ、くるぶしなどが忘れられやすいようです。スプレーをした後、自分の体にまんべんなくペンキを塗るイメージで塗り残しがないように意識すると上手に塗ることができます。

次に、虫よけスプレーは汗で流れてしまいます。特に暑い時期に使用するものなので、2～3時間を目安に塗りなおすことがとても大切です。この時も、特に関節の内側など汗が溜まりやすい場所、顔のようによく汗をぬぐう場所を中心に塗りなおしましょう。

最後に日焼け止めを併用するときは、スプレーはその上から行うことです。有効成分は一番外側にあることが重要です。

上手に使って虫刺されに悩まされない生活を送りましょう！



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-119-20

TEL 086-2241-8080

FAX 086-2241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)